

令和3年第4回栗原市議会定例会 一般質問【個人質問】 通告表

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
1	20番 三浦善浩	1 「生理の貧困」から救え	<p>1 世界各国で女性の月経に関する「生理の貧困」が問題となっている。「生理の貧困」とは、生理用品を買うお金がない、また、利用できない、利用しにくい環境にある事を指し、発展途上国のみならず格差が広がっている先進国においても問題になっている。そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) 経済的理由により生理用品の用意が難しい方に対して、必要な方に届く仕組みの検討はどうか。</p> <p>(2) 市内の小・中・高等学校及び大学校等において、生理用品を無償で提供する方策の検討はどうか。</p> <p>(3) 生理不順等により、生理日の就業が著しく困難な女性に対する措置として、労働基準法第68条で定められた制度の周知に取り組み、職場更には学校において適切に体を休める環境整備に努める取り組みはどうか。</p> <p>(4) 関係機関や団体と連携し、生理用品や生理日の就業等に関わる相談体制を整えるべきではないか。</p> <p>(5) 生理を隠さなければならない風潮とするのではなく、学校教育においても社会全体においても、適切な情報提供をしていくことについてはどうか。</p>
		2 投票所まで「デマンド交通」の活用を	<p>1 選挙の投票日までに、投票所まで移動する交通手段を確保できないと、投票の機会を逃してしまう。投票率の向上を願いながら、次の点について伺う。</p> <p>(1) 運転免許証を返納した方や移動する交通手段を持たない高齢者に対して、期日前投票所(各総合支所)までデマンド交通を利用していただくはどうか。(運賃の補助をするなどして負担軽減をしていく。)</p>
		3 「新たな避難情報等」の周知を	<p>1 国は、5月に避難情報に関するガイドラインを公表し、5月20日からは避難情報等も新たに変更となった。市でも、早速チラシを配布してお知らせをしている。そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) チラシを配布してみて、市民の反応はどうか。また、市民の理解は、深まってきているか。</p> <p>(2) 自治会や自主防災組織などの単位(場合によっては、もっと小単位に)で、市の指導で学習する場を設けてはどうか。(コロナ対策を講じて行う。)</p>
		4 教育現場における「熱中症」への対策は	<p>1 これからの季節、児童・生徒などが運動中に熱中症のような症状で救急搬送されるというニュースが必ずと言っていいほど報道される。そこで、次の点について伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 学校における熱中症対策ガイドラインの作成は、行われているか。</p> <p>(2) 暑さ指数(WBGT)を基準とした対策や体制は、整っているのか。また、熱中症警戒アラートが発表されたとき、各学校の実情に応じた熱中症警戒アラートへの対応方法はできているのか。</p> <p>(3) 熱中症予防について、教職員の理解は共有されているか。(過去の事故からの教訓など)</p>
2	12番 阿部 貞光	1 イノシシ・熊被害から市民生活を守れ	<p>1 宮城県においては、令和元年度の鳥獣被害は1億5,662万円で、その内イノシシが8,038万円、鹿が2,335万円の被害額となっており、イノシシによる被害額が全体の51.3%を占める状況にある。</p> <p>市内においても、イノシシによる被害が急激に増加している状況にあり、鳥獣被害対策は喫緊の課題であると考え。そこで次の点について伺う。</p> <p>(1) 鳥獣による被害額と被害状況を伺う。 (平成30年度～令和2年度) (種類毎)</p> <p>(2) イノシシの捕獲計画数と捕獲数、熊の捕獲頭数を伺う。また、目撃・痕跡情報の推移は。 (平成30年度～令和2年度) (種類毎)</p> <p>(3) ICTを活用したイノシシ用の囲い罠を設置しているが成果は。</p> <p>(4) 栗原市鳥獣被害防止対策協議会が設置されているが、これまでの協議回数と協議内容を伺う。</p> <p>(5) 栗原市鳥獣被害対策実施隊の職務は、イノシシの急激な増加や熊の出没数などから市民の暮らしを守るためにも、極めて重要と考える。罠設置・見回り確認等の手当等は万全か伺う。また、報酬・費用弁償等の見直しを求めるがどうか。</p> <p>(6) 栗原市鳥獣被害防止計画では、平成31年度から平成33年度までの3年間、イノシシ対策としてワイヤーメッシュ柵をそれぞれの年度で3地区6,000m設置する計画となっている。国から指摘を受けたとして実施されていないが、国との協議結果と実施、見通しを伺う。また、イノシシ被害と対策の要望の声を多くの市民から聞くが、市へはどのように届いているか対応についても伺う。</p> <p>(7) 令和3年4月1日付で消費・安全局長、農林振興局長から豚熱まん延防止のための野生イノシシの捕獲強化の方針について通知がなされ、市町村及び鳥獣被害防止総合対策交付金の事業実施主体に対し、周知・指導いただくよう通知願いたいとされている。市の対応はどうか伺う。</p> <p>(8) 現在、市では捕獲したイノシシの処分は埋設処分とされている。しかし、狩猟者や実施隊員の大きな負担となっている。処分場の建設を求める声が聞かれる。処分場・処理加工施設の建設を進めるべきと考えるがどうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 市長の選挙公約の実現に向けた取組について	<p>1 佐藤市長は令和3年4月に実施された市長選挙において、5つの大綱と17の細目を公約とし、多くの市民から支持を受け当選を果たしている。市民からの期待も大きいものと考えるところであり、公約実現に向けどのように取組んでいくのか、実施時期についても細目毎に伺う。</p> <p>また、東京電力福島第一原発事故により汚染され、現在市内で保管されている汚染牧草、汚染稲わら等の処理についても、「ふるさと栗原」と市民生活を守るためにも喫緊の課題であるが、どう進めるか伺う。</p>
3	14番 佐藤 悟	1 教育政策	<p>1 及川平治先生の功績について</p> <p>(1) 及川平治先生の教育理念をどのように評価しているか。</p> <p>(2) 及川平治先生の教育理念を今日の教育現場に生かしてほしいがどうか。</p> <p>(3) 及川平治先生に関する資料を永久保存・展示し、閲覧に供してほしいがどうか。</p> <p>(4) 及川平治先生は、明石女子師範学校附属小学校に赴任して約30年間勤めた。現在の神戸大学教育学部明石小学校（「及川記念館」）への教員派遣事業を行い、研修・交流を図ってはどうか。</p> <p>2 「GIGAスクール構想に係る学校ICT環境整備事業」について</p> <p>(1) 教諭の習熟度はどれほどか。</p> <p>(2) 児童・生徒の学習活動の成果はどう生まれているか。また、一方課題はどうか。</p> <p>(3) 「タブレット」を家庭学習に生かすことは出来ないか。</p> <p>(4) 長期休校中の学校・家庭間の「オンライン授業」を進めるべきと考えるがどうか。</p> <p>3 「一人一人を大切にし、豊かな心を育むための教育の推進事業」について</p> <p>(1) 小・中学校毎の不登校の人数。</p> <p>(2) 不登校の主な要因は何か。</p> <p>(3) 「けやき教室」について</p> <p>① 通学人数。</p> <p>② 復学者人数。</p> <p>③ 在学青少年指導員2人、補助員2人が配置されているが、心のケア、学習のフォロー、生活リズムの確保等、どう行われているか。</p> <p>(4) 「子どもの心のケアハウス」について</p> <p>① 事業運営方針、心のサポート、適応サポート、学びのサポート等、「けやき教室」、学校との連携はどう行われているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>4 プール授業について</p> <p>(1) 手洗い、アルコール消毒、マスク着用、3密回避など感染拡大防止対策を徹底した上でプール授業を再開すべきと考えるがどうか。</p>
		2 労働政策	<p>1 雇用確保・就労支援体制について</p> <p>(1) 雇用の確保、就労支援を産・学・官・労一体となって取組む「(仮称)栗原市雇用確保・就労支援センター」の設置をすべきと考えるがどうか。</p> <p>2 「在籍型出向協議会」について</p> <p>自社に在籍のまま他社に出向し、雇用と生活保障を確保する新たな雇用形態が生まれている。宮城労働局は「在籍型出向協議会」を設置している。</p> <p>(1) 委員構成はどうか。</p> <p>(2) 任務と役割は何か。</p> <p>(3) 雇用の不安定化、労働条件の引き下げなど、雇用環境の悪化になるのではないかと、どうか。</p> <p>3 「宮城県地域最低賃金」について</p> <p>(1) 中央最低賃金審議会が示す目安「Cランク」から「Bランク」への引き上げ、一時間の最低賃金1,000円以上への引き上げを10月1日から発効することについて、国・県・関係機関に働きかけることが必要と考えるがどうか。</p>
		3 医療政策	<p>1 新型コロナウイルス感染症について</p> <p>(1) 診療・治療体制等について</p> <p>① 感染者(患者)数(入院、療養、退院等)</p> <p>② 医師、看護師、医療技師等の人数</p> <p>③ 病床数・利用率</p> <p>④ エクモ(人工集中呼吸器)設置数</p> <p>(2) 感染症拡大防止の石鹸、アルコール消毒液、マスク、医療用手袋、フェイスシールド、防護服、薬剤等、資材、器材等の調達、備蓄、供給体制は万全か。</p> <p>(3) PCR検査について</p> <p>① 受診人数</p> <p>② 陽性人数、陰性人数</p> <p>③ 保育・医療・介護・教育・消防等従事者の検査は行われているか、その結果はどうか。</p> <p>(4) 「ワクチン接種実施計画」について</p> <p>① 直近の接種実績(1回目、2回目)はどうか。</p> <p>② 副反応の発症の訴えはないか。副反応が疑われる症例が発生した場合の対応はどうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>③ 入院患者、施設入所者、在宅療養者等への接種はどう行うのか。</p> <p>④ 会社、事業所、高校、大学を対象とした、集団接種方式の検討が必要と考えるがどうか。</p>
		4 公共交通等政策	<p>1 「(仮称) 公共交通ターミナル」の整備について</p> <p>(1) 栗原市の玄関口の「くりこま高原駅」前を公共交通網の要所として「(仮称) 公共交通ターミナル」を整備してはどうか。</p> <p>2 市内連携路線、広域路線について</p> <p>(1) 運行系統・回数・時刻等の検討はどう行われているか。</p> <p>(2) 車両のバリアフリー化は、どう進められているか。</p> <p>(3) 主要停留所(特に乗り継ぎ)は、屋根・フード付きに整備すべきである、どうか。</p> <p>3 スクールバス運行について</p> <p>(1) 現在、スクールバスは「放課後児童クラブ」利用の児童は、復路に乗車出来ていない。復路も乗車できる運行形態とすべきである、どうか。</p>
		5 まちづくり政策	<p>1 「中核機能地域開発事業」について</p> <p>(1) 「築館宮野地区」整備事業の進捗状況と今後の取り組み計画・スケジュール等を伺う。</p> <p>(2) JR「くりこま高原駅周辺地区」整備事業計画の対応はどうか。</p> <p>(3) 「(仮称) 道の駅」構想についての対応はどうか。</p>
4	11番 相馬勝義	1 築館高校野球部グラウンドについて	<p>1 市発展の起爆剤にするためにも、前市長懸案である「築館高校野球部グラウンド移転」を強力に推進していかなければと考える。今日までの県との協議の答弁は、これ以上時間をかけてはいけない所まできていると思われる。これまでの協議内容については、新設グラウンドの造成範囲や整備に係る問題のほか、日程について県と調整、測量や用地取得を進めていると伺っているがどうか。</p>
		2 中核機能地域の計画について	<p>2 中核機能地域の整備は、築館高校の新設グラウンドが隣接することで都市機能の強化と交流人口の増加が見込まれ、地域の活性化に非常に大きなメリットになる。市長は引き続き整備計画を進めたいと構想を伺っているが、今後どのように進めていくのか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		3 成田、留場地区 迫川の支障木伐 採について	3 国土強靱化事業が延期されたことにより、迫川の支障木伐採計画がどの程度拡大されると確認しているか。 また、宮野地区は栗原中央病院を始めとして、各種の店舗や住宅街等が広がる栗原の顔である。この地区の冠水を防ぐためには、二迫川合流地点から上流域の支障木伐採も必要性があると考え。二迫川合流地点から下流域と合わせて、宮野地区から留場、成田地区の支障木伐採についても強く県に働きかけることが重要と考えるが、市長の考えを伺う。
		4 新型コロナのワクチン接種について	1 市では、ワクチン接種の加速化を進めるため 16 歳以上 65 歳未満の方々の接種券を 7 月上旬に送付するとのことである。これまで市では開業医での個別接種で対応してきているが、開業医からは、これまでの個別接種では対応が難しいとの声が聞こえている。ワクチン接種の加速化にはあらゆる場面を想定する必要があるが、今後の市の対応をお聞きする。
5	16 番 高 橋 渉	1 財政再建について	1 市長は前市長による政策、及びそれに伴う財政運営についてはどの様に評価されているか。その結果を踏まえ今後の財政運営にどの様に生かそうとしているのか。本年度の政策の中で、新市長としての独自の目玉となる施策、それに伴う予算はいかほどなのか聞く。 私は財政再建は相当難しいのではないかと考えている。その理由としては、私が勝手に名付けている双子の赤字である。双子の一つは病院である。もう一方の双子が問題である。それは第 3 セクターである。ハイルザーム、温湯山荘、金成延年閣を運営するゆめぐりグループ。そしてエポカ 21 である。この施設は毎年赤字を発生させており、その都度、市からの財政出動で何とか経営を維持して、問題を先送りしてきた。私はこの第 3 セクターの根本的な解決なくして財政再建はありえないと考えている。 以上の観点から質問する。 (1) 市独自の重点施策は何か。 (2) 市民サービスと財政再建の兼ね合いをどの様に考えているのか。 (3) 第 3 セクターの現状の認識と今後の扱いをどの様にするのか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 まちづくり、地域づくりの取り組みについて	1 「NPO法人アズマーレ」は、市民活動支援センターの指定管理者として施設の管理運営業務、場所貸しのほか、市民活動に関する情報収集及び提供、各種イベントの連携及び協働、人づくり、人材育成支援など、その活動は多岐にわたっている。私はこの「アズマーレ」の業務内容や活動状況、それに伴う指定管理料を調査した。その結果指定管理料が周辺自治体との格差があまりにも大きく、啞然とした次第である。宮城県内においても最低ランクの位置となっている。また、言うまでもなく、これからの地域づくり、まちづくりには専門の団体が必要不可欠である。この様な団体は積極的に育成し、行政の一端を担う組織として、その活動範囲を広げる役割が期待される。 以上の観点から質問する。 (1) アズマーレやその他まちづくりの団体に対しての指定管理料は適正であるのか。 (2) 地域おこし協力隊への支援は十分に行われているのか。予算の執行は適正に行われているのか。また、活動については活躍しやすいように、彼らの要望に適切に対処しているのか。
		3 六角牧場風力発電事業について	1 この事業については景観に、また、自然体系に大きな影響を与えるのではないかと危惧している。以上の観点から質問する。 (1) 現在の進行状況は。 (2) 市としてはどのような対応を考えているのか。
6	9番 菊地 広志	1 中小企業・商店・商店街等への支援策について	1 新型コロナウイルス感染症の影響で、市内の中小企業・商店等の業務内容や経営状態も著しく悪化し変化疲弊している。市としても市内4カ所の商工会と連携して、資金繰りや低利融資の斡旋、また「中小企業等事業継続応援支援金」や地元商店の応援の為の「割り増し商品券事業」等、様々な支援事業を行っている。 (1) これらの支援事業について、中小企業や商店経営者からの相談や要望等は伺ったか。伺ったならそれらの内容(要望等)はどのようなものか。 今後も販路拡大支援や、新製品・新技術の開発等の取り組みなど、持続化事業に要する経費の一部について、予算の範囲内で補助金等を支援する事業を行っていくべきと思うが如何か。 (2) 新型コロナウイルス感染症特別貸付制度等の返済猶予期限も迫り、返済を始めないといけない事業者が多く居ると思うが、まだまだコロナ禍で売り上げも上がらず安定せず、返済が難しいと言う事業者に対して、栗原市では何か独自に、返済猶予の救済策や今後の支援策は考えていないのか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 飲食店に商品や食材を卸している事業者の方々などの「関連事業者」には残念ながら殆ど支援が届いて居ないのが現状である。</p> <p>時短営業されたら食材や商品の発注は減る、また休業されたら完全に発注は止まり疲弊するばかりである。そこで今後このような場合に、そのような事業者向けの追加支援策として栗原市独自の資金貸付制度や補助金等の支援は出来ないものか。</p> <p>(4) 商店や商店街が抱えている様々な問題の解決や活性化に向けた様々な取り組みをするうえで、専門的な立場から指導助言をして頂く「栗原市アドバイザー派遣事業」(仮称)を市内4カ所の商工会と連携して行い、魅力ある商店づくりにより、地域の活性化に繋がれば良いと思うが、このような事業も検討して頂きたいと思うが如何か。</p>
		2 飼い主のいない猫への栗原市独自の補助金制度について	<p>1 現在、宮城県では去勢不妊処置に補助金を出しており、雄猫の去勢に6千円、雌猫の不妊処置に1万2千円の助成があるが、補助金で賄えない部分は保護した方が自腹で支払っているのが現状である。</p> <p>(1) ここ数年の栗原市、または栗原保健所管内での猫の保護依頼数や、持ち込まれた飼い主のいない猫の頭数が分かるなら教えてほしい。また、その保護された猫の最終的な行先は何処で、どのようになっているか。</p> <p>(2) 栗原市独自の補助金制度があれば、保護された市民の方の負担も減り、飼い主のいない猫の保護活動にも積極的になり、無秩序な繁殖も減り猫が増える心配も無くなると思うが、この先、栗原市独自補助金の実現対応等が出来るかどうか。また、飼い主のいない猫が増え続けている現状をどのように考えているか。</p> <p>(3) 飼い主のいない猫を保護し、不妊手術を施し、無秩序な繁殖を抑制し、近年都市部を中心に行われている「地域猫」の考え方に基づく「栗原市地域猫事業」(仮称)を創設し実施するような提案をしたいと思うがどう考えるか。</p>
		3 若柳都市計画(道路整備)について	<p>1 栗原市都市計画の中における、若柳地区の都市計画決定区域の道路整備についてお聞きしたい。栗原市都市交通マスタープランによると、道路整備における基本的な考え方は「対象路線」と「計画期間」によりマスタープランとの整合性を図り平成21年度から概ね20年間で整備をする事になっているが、栗原市都市計画道路においても長期未着手路線が市内に何件かある。</p>



発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 長期未着手路線の若柳都市計画区域内、「新山十文字線」や「金成石越線」等の未着手 6 路線の着工予定はあるのか。また現在も整備計画（着工計画）はあるのか。</p> <p>(2) 道路を整備するには、現在田んぼや住宅地の土地を、整備に向けて用地の買収等を行わなければいけないと思うが、用地取得に向けての測量等は行っているのか。</p> <p>(3) 都市交通マスタープランによれば、計画区間は前期と後期に分けてあり、前期は概ね計画から 10 年以内、後期は概ね 10 年から 20 年以内に完了または着手を目指すものとあるが、現在の状況でこのままの計画期間で完了または着手できるのか。</p>
7	21 番 尾 形 勝 通	1 若者定住政策について	<p>1 私は「栗原に仕事や職場を増やし、農業を奮い起こして二世帯、三世帯の家族に囲まれて、又はスープの冷めない所に居住して、暮らせる栗原づくり」に市政は全力を尽くしていくべきと考えている。そうして住みたい田舎No.1 にプラスして、住み続けたい田舎No.1 を目指していくべきと考えているが、市長の若者定住政策に関する基本姿勢について伺う。</p> <p>2 平成 27 年度高清水佐野丁公営住宅跡地を市が 10 区画に造成し、市場価格より安い価格で販売を開始したところ瞬く間に完売し、新しい住宅が次々と建てられ、さながら住宅展示場の様を呈している。若者定住策が成功した事例となっている。</p> <p>高清水、瀬峰等栗原南部地域の環境を見てみると、若者定住策の基本である「住んでもらう」「家を建ててもらおう」という環境が整っていると考えている。そこで栗原南部地域に第二の成功を期待し、市営の宅地造成と販売を住宅政策に取り入れて若者定住策を具体的に進めていただきたいと考えるが、市長の見解を伺う。</p>
		2 市長公約の農業政策について	<p>1 栗原市農業の主体となる家族農業を J A とともに支援するのは勿論のことだが、中小農家を含めた多様な農業経営を維持・発展させるべきと考える。多様な農業経営が、維持・発展する、将来像を描き、市長の農業政策を具体的に示して実行に移していくことこそ栗原市農業の維持・発展につながっていくと思うが、市長の農業政策の具体的方針と、目標について伺う。</p> <p>2 現在も将来も栗原市農業は食品加工用の生産にも乗り出しているし、加工品づくりで農福連携ができると考える。流通が多角化している販売事業にも取り組めるとともに、栗原市も進めている 6 次産業化にも農福連携は取り込めると確信をしているところである。そこで市長の政策目標の中には農福連携が視野にあるのか、農福連携を農業政策の中に取り入れ、政策化する考えはあるのかどうか、見解を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		3 千葉卓三郎の功績をたたえる顕彰事業を起こしてはどうか	<p>1 千葉卓三郎は栗原市志波姫出身の自由民権思想家で現在栗原市と姉妹都市提携している東京あきる野市で、明治憲法発布に先立ち民主的な「五日市憲法草案」を起草した中心人物として知られている。この草案は「人権の擁護」、「地方自治の確立」の思想で溢れており、百年以上経過した今日でも、その輝きを失っていないと言われている。そこでこれまでの栗原市政の中で千葉卓三郎を顕彰するような事業が、計画、または検討されたかどうか伺う。</p> <p>2 憲法改憲の動きと相まって五日市憲法が脚光を浴びて来たこの時期、是非栗原市として市民の誇りとして、顕彰事業を企画してはどうかという政策提言をしたいと思う。</p> <p>また、この顕彰事業を起こしてほしいという栗原市民の有志の方々は、千葉の生涯をNHK大河ドラマで取り上げていただくべく活動に熱をいれている。市民協働で千葉卓三郎の顕彰事業を行うという活動について、市長の見解を伺う。</p>
8	22 番 菅 原 勇 喜	1 公約実現の道筋とその財源手当ては	<p>1 選挙公報及び広報くりはらにおいて、市長は公約として「誠実・実行・未来」をモットーに5つの目標を掲げた。公約実現目指してこれからの4年間どのように取り組まれていくのか明らかにされたい。</p> <p>2 小・中学校の給食費の無料化と、小学校25人学級の実現の具体化はどのように取り組んでいくのか。それぞれの施策の費用総額と財源手当てはどのように対応するのか。</p> <p>3 前市長の目玉政策であった「道の駅」をはじめとした中核機能地域構想については、市長選において、両陣営ともに全く触れられなかった。白紙撤回されたものと理解するがいかがか。</p> <p>4 乗合デマンド交通の見直しについては、石越駅発の市民バスが電車到着の数分前に出発するので利用できない、高清水では、満車で乗れない子供がいるとか市民バスを含め様々な改善要望が出されている。どのような過程を経て見直しを行っていくのか、その方策について明らかにされたい。</p> <p>5 行政の効率化と健全財政の確立」を掲げているが、本年第1回定例会において、一般会計における各種基金年度末残高見込み、地方債年度末残高見込みが、ちょうど市長の任期と重なる令和6年度末まで示されたところである。市長はどのような財政運営を行っていくのか。この数字に準じた財政運営を行っていくと理解してよいか。</p> <p>6 新過疎法が本年から10年続くが、これまで同様、過疎債は「住民福祉の向上」を目指し、「生活や通信などのインフラ整備に加え、仕事や子育て環境のきめ細やかな支援」に使えるものと理解するがいかがか。栗原市の発行限度額、およびハード・ソフト事業の割合はどのように振り分けていくのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 官製談合事件を繰り返さないために	<p>1 官製談合事件を繰り返してはならない。市長は入札に当たって具体的にどのような対応策を考えているか。</p> <p>2 栗原市は「積算ソフトで設計価格を当てる事が可能」という立場に立っているが、先の官製談合事件で明らかになったように「漏洩された情報なしには設計価格を当てることは不可能」とであると料するものである。「積算ソフトで設計価格を当てる事が可能」という立場に立つなら官製談合再発防止は不可能である。いかがか。</p> <p>3 設計価格を予想できる積算ソフトがあるのならば、それを作っているメーカー名、製品名を明らかにされたい。</p>
		3 川渡六角牧場での巨大風力発電事業計画の対応について	<p>1 住民からは様々な疑問、不安の声が寄せられているが、市はどのような見解を持ち対応しようとしているのか、市長の権限等も含め明らかにされたい。</p>
9	18番 五十嵐 勇	1 重点プロジェクト事業の今後の方向性について	<p>1 合併して16年が経過したが、合併時にもちこんだ重点プロジェクト事業もすでに終了した事業、中止した事業もあり、一方未着工事業については市民は大きな関心をもっている。以下伺う。</p> <p>(1) 合併時にもちこんだ重点プロジェクト事業の事業別の進捗について。</p> <p>(2) 未着工事業別の推定事業費は。</p> <p>(3) 未着工事業の今後の方向性について市長の見解を伺う。</p>
		2 コロナ対策について	<p>1 コロナ禍の中、栗原市の感染者数が71人と低くおさえられていることは、市民の自粛の努力の成果だと思っているが、ワクチン接種については、いつ予約が取れるのか、いつ接種できるのか大きな不安の中にある。そこで伺う。</p> <p>(1) 後期高齢者、高齢者の予約確定数、ワクチン接種者数の実態はどうなっているのか。</p> <p>(2) 予約が取れない、接種がいつになるか分からない。このような現況をどうとらえているか。</p> <p>(3) 集団接種方法を実施すべきと思うが、その考えはあるか。</p>
10	8番 小野 久一	1 新型コロナワクチン接種の早期完了とPCR検査の実施を	<p>1 直近の区分ごとのワクチン接種券発行数と接種人数、その進行割合、1日当たりの接種人数を示せ。</p> <p>2 栗原市はワクチン接種実施計画の一部変更を行ない、高齢者については7月中に終えるということだが、医療機関で実施することは変わらないため、8月接種と言われている実態がある。ワクチンの供給は十分であるのに接種が進まないのは接種体制、方策に問題があるのではないか。</p> <p>登米市は集団接種により、高齢者については7月2日で終了する予定であり、報道によれば64歳以下も集団接種で行なうとのことである。栗原市においても医師会等の協力のもと集団接種にも取り組むべきでないか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>3 PCR検査の実態はどうなっているか。 医療関係者、保育所・幼稚園・小中学校関係者、高齢者施設・介護施設・デイサービスセンター関係者、訪問介護事業所関係者等のPCR検査は行われたか。最低限このような方々の検査は必要と思うが、市長の所見を伺う。</p>
		2 成人式はどう実施されるか	<p>1 多くの成人者が参加でき成人者が主人公で、家族をはじめ多くの人に祝福される式になるようにしていただきたいとの思いから、次の点について伺う。</p> <p>(1) 2021年1月に予定されていた成人式がコロナ禍の中で延期されたが、いつ、どこで、どのような形で実施するか決定されたか。</p> <p>(2) 着物の着付けやヘアセット等、裏方として無くてはならない美容師の組合から5月24日、教育部に対して成人式を実施するにあたって申し入れがあったが、大いに参考にすべきと思う。検討されたか。 (①令和3年成人者は今年中に、4年成人者は新年に。②延期しているので、これを機会に寒くないときでもいいのでは。③同時期に実施するのであれば1週間はあけてほしい、午後の開催を望む。等々)</p> <p>(3) 参加する成人者にはPCR検査(検査料金は市が負担)を受けてもらい、陰性証明書を提出してもらえば、安心・安全の成人式になるのではないか。</p>
		3 家族農業、中山間地小規模農家を守り発展させる市政を!	<p>1 政府は認定農業者・集落営農に補助事業を集中し、その育成に力をいれ大規模農業以外は日本にはいらぬという農政に転換したとしか思えない。これでは栗原市の農家・農業・農地は守れないと考えるが、市長の所見を伺う。</p> <p>2 中山間地小規模農家を守るためには、「市農業用揚水機場維持管理補助金」を合併時の水準に戻すこと、「市地域農業を担う営農支援事業」の対象は3戸の共同購入となっているが、2戸に引き下げて利用しやすくし補助率を上げること、「市土地改良事業補助金」は予算の増額をすること、以上のことを実施して、悩み・苦しみながら営農に取り組んでいる農家の手助けをすべきでないか。</p>
		4 多くの児童・生徒が利用できるスクールバスにすべき	<p>1 通学距離に関係なく、利用したい児童・生徒が利用できるスクールバスにすべきでないか。</p> <p>2 「現在、スクールバスを利用している兄や姉は卒業するまで利用させるが、新しく入学する子どもは距離基準を満たしていないので利用できませんよ。」と言われた保護者がいると仄聞したが、事実か。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
1 1	13 番 高 橋 将	1 選挙公約について市民に具体的に示せ	<p>1 公約については任期中の実現に向け、実施期日の提示や実現に向けた必要事項や調整などの内容を明確に示し、スピード感を持った対応が必要である。そこで以下の公約について、それぞれの実施内容、実施期日、必要となる所要額、予定財源などを市民に向け具体的に明らかにせよ。</p> <p>(1) 目標 1 の「安全・安心に暮らせるまち」では、防災無線受信機の毎戸設置について、その内容などを具体的に示せ。</p> <p>(2) 目標 2 の「子どもたちが健やかに成長できるまち」では、小中学校の給食費無料化と小学校の 25 人学級の実現が掲げられている。教育関係者からは教員の成り手不足が聞かれるが、人員確保の考えも含めその内容などについて具体的に示せ。</p> <p>(3) 目標 3 の「生きがいと楽しみをもって過ごせるまち」では、「乗合デマンド交通の見直し」を掲げている。令和 2 年度の利用状況によれば、乗合デマンド交通の利用登録者は 1,158 人で令和元年度末と比べ 772 人の減となり、コロナの影響も相まって 40%の減少となっている。見直しに対しての考えを具体的に示せ。</p> <p>(4) 「女性が社会で活躍する場の拡大」について、現状の女性活躍状況に対して市長の考えと、公約の内容などを具体的に示せ。</p> <p>(5) 目標 4 の「豊かさを実感できるまち」では、次世代スマート農業や家族農業への多様な農業経営への支援を掲げているが、その内容などを具体的に示せ。</p> <p>(6) 目標 5 の「一人一人の声が反映されるまち」では、行政の効率化と健全財政の確立を掲げ、厳しい財政状況が想定される状況においては非常に重要な項目である。市長の任期中に目指す財政コストの削減目標や達成させるために必要な内容などを具体的に示せ。</p>
		2 コロナワクチン接種体制を万全にせよ	<p>1 医療従事者から優先的に接種が始まり、5 月 17 日からは 75 歳以上の接種を開始。6 月 7 日からは 65 歳以上 75 歳未満の接種予約をスタート、6 月下旬には 12 歳以上 65 歳未満の接種券の送付を予定している。今後は現役世代となる 65 歳未満の対象者へもワクチン接種に関わる対応が始まるが、ワクチン接種が円滑に行われる体制の準備状況について質問する。</p> <p>(1) 一般高齢者の接種完了時期は 7 月末に完了する予定とのことだが遅れはないか。また「完了」の定義はどう考えているか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 65 歳未満の予約方法や、接種方法はどうするのか。</p> <p>(3) ワクチン製造メーカーの違いによるワクチン接種可能な対象年齢制限が異なり、12 歳以上はファイザーのみとなる。薬事承認されているワクチンは他にモデルナとアストラゼネカがあるがどちらも 18 歳以上である。18 歳未満が接種の時期にファイザーのワクチンが他社へ切り替わる可能性もあるが、接種に問題はないか。</p>
		3 SDG s への考えと取り組みについて示せ	<p>1 今の生活を続ける場合、世界は「持続不可能」と言われており、それを持続可能なものとする SDG s を達成するためには、企業や学校、地域社会、そして住民一人一人に至るまで、全ての人が目標に向かって取り組んでいくことが求められており、自治体が SDG s の推進に努めることは責務である。</p> <p>明日を担うこどもたちに「豊かな美しいくらはら」を引き継ぐため、未来のまちづくりにリーダーシップを発揮することは首長が果たすべき重要な役割である。栗原新市長の SDG s への考え、取り組みについて示せ。</p>
1 2	4 番 佐々木 嘉 郎	1 施政方針をきいて	<p>1 新型コロナウイルスワクチン接種について。</p> <p>市内における接種状況は、医療従事者への優先接種を 3 月 15 日から、高齢者施設への先行接種を 4 月 19 日から、一般高齢者への接種を 5 月 17 日から実施しており、その接種完了は 7 月末と説明している。当初計画では 8 月末と予定していたが、心許ないので聞きたい。</p> <p>(1) 現在の接種済み者の割合は。</p> <p>(2) 集団接種で効果をあげている自治体もあると聞く。本市も集団接種を取り入れてはどうか。</p> <p>(3) 12 歳以上 65 歳未満者約 3 万 3,000 人については、具体的な接種方法はどうなっているか。</p> <p>(4) 学校での集団接種を考えると。</p> <p>(5) 福祉事業所は、障害や福祉の壁をつくらず同一基準で接種すべきではないか。</p> <p>2 商工業への支援と振興策について。</p> <p>(1) コロナ禍の影響で市内の商工業者は収入が激減している。本市では昨年売上げの減少した事業者には 10 万円の支援金を 3 回支給している。また、地元商店を応援するために全世帯に 1 万円の商品券を給付、割増商品券を 2 回発行している。商工業の実態をどう捉えているか。また、今後も力強い支援を続けるべきと思うがどうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 通称「マル経融資」の利子補給の拡充について。マル経融資は無担保・無保証人で小規模事業者にとって利用しやすい制度となっている。一方、金融機関と取引の浅い新規に開業した若い零細な事業者は、中小企業振興資金の融資が中々受けられず、資金を必要とする所に届いていない実態がある。先進自治体では、マル経融資の支払利息の2分の1以上の補助を既に行っている。事業者を支援するため、振興資金と同様マル経融資においても支払利息の2分の1を補助すべきと思うがどうか。</p> <p>(3) 市独自の商工業活性化補助金の創設について。 商工業補助金は他の産業と比べても、極端に種類も額も少なく、自助努力だけでは限界がある。商工会への運営補助金を除き、特に個店に対する補助金はゼロに等しく、市独自の支援が必要ではないか。例えば、個店に対する、店舗の改修、外装や看板などの更新、機械や設備の購入、店舗前の買い物駐車場の整備、高齢者同志の交流スペースの設置などが考えられる。こうした観点で問う。</p> <p>① 市独自の補助金制度の創設は。 ② 今後の力強い商工業振興策は。 ③ 商工会が独自に事業展開できるように、運営補助金の拡充を図るべきではないか。</p> <p>3 栗駒山や伊豆沼などは、栗原が全国に誇る美しい自然であり、豊かな観光資源だ。市長はコロナ収束後を見据えた交流人口の増加策を検討すると示した。現在、県道築館栗駒公園線の土砂崩落（落石）により全面通行止めとなっている。以下問う。</p> <p>(1) いつ頃通行止め解除になるか。 (2) 迂回路としての市道、馬場駒ノ湯線の管理や案内板の設置は大丈夫か。 (3) アフターコロナを見据え、オートキャンプ場の再開を求める声がある。考えてみてはどうか。</p>
13	2番 澤 邊 幸 浩	1 将来にわたる地域農業の推進について	<p>1 栗原市における農業者の高齢化と担い手の減少が急速に進む中で、今回、市長が施政方針の中で示された、地域農業の経営体を確保し、将来にわたり持続可能な農業経営を農業振興と共に推進するとあるが、以下の点について問う。</p> <p>(1) 今回の施政方針において、家族農業への支援を充実し、多様な農業経営体が共存できる農業振興を推進するとあるが、家族農業経営が衰退している現状の中で、如何に推進するものか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 6月補正予算の新規事業の中で、農業における経営継承・発展等支援事業、家族農業経営等継承発展支援事業がある。家族農業経営を始めとする担い手の経営を継承し、発展させる取り組みを支援するとあるが、具体的にどのような支援を行うものか伺う。</p> <p>(3) 次世代農業に対応したスマート農業についても、農業振興の一環として推進するとあるが、農業先進地においては、「スマート農業を支える基盤整備実証事業」をスタートさせ、先端技術を活用した農業として、自動操舵トラクター・田植機やICT水管理（遠隔操作による自動給排水）等の実証が進められている。栗原市においては、スマート農業の振興をどのように推進していくのか伺う。</p>
		2 デジタル推進事業について	<p>1 国では「自治体のAI・RPAの利用推進」として、行政のデジタル化を推進している。栗原市においても、6月補正予算の新規事業の中で、RPA等を導入し業務を自動化することにより、定型的な事務作業の正確性や迅速性を高め、市民サービスの向上を図るとあるが、以下の点について問う。</p> <p>(1) RPA等の業務量調査や実証実験が令和元年度から令和2年度にかけて実施されたとあるが、導入に向けた効果や課題について、どのような結果が示されたか伺う。</p> <p>(2) 令和3年度においては本格導入されるのか、されるとあれば、どのような業務に適応されるのか詳細を伺う。</p> <p>(3) 現在、AIやビックデータを活用し、社会のあり方を根本から変えるような都市設計の動きが、国際的には急速に進展しているが、栗原市においても、今後、AI・IoTなどのデジタル技術をどのように活用していくか、その方針はあるのか伺う。</p>
		3 GIGAスクールの現状について	<p>1 新年度、新学期よりGIGAスクールにおける授業が、栗原市においても開始されている。タブレット端末が活用された学習の効果と、今後の取組みについて以下の点について問う。</p> <p>(1) 新学期より開始された、タブレット端末における学習において、以前の授業からは見られなかった効果はあるのか。また、逆に問題点はあるのか伺う。</p> <p>(2) GIGAスクール構想におけるタブレット端末の活用は、授業のみならず、学習の可能性を飛躍的に進化させるものとする。例えば、世界をつなぐオンライン授業など、国際的交流をもって、国際感覚を身につかせ、世界に通用する人材の育成に結びつくと思うが、そのような取り組みを行う考えはあるか。</p>



発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
14	23番 高橋勝男	1 佐藤新市長が選挙で掲げた公約実現に期待	<p>1 選挙で掲げた5つの目標に期待する声が多い、以下の3点について、どのように今後進めていくのか伺う。</p> <p>(1) 乗合デマンド交通の見直しで、市長の考える見直しとはどのような事を想定しているのか伺う。また、旧町村単位から生活圈エリアへの見直しについてはどのような見解をお持ちなのか伺う。</p> <p>(2) 小・中学校の給食費無料化と小学校25人学級の実現について伺う。小中学校の給食費は令和元年度決算、収入済み額で約2億9300万円になるが、いつの時期から給食費無料化に取り組むのか。また、小学校25人学級では、教室や教員の確保が課題である。どのような手法でいつから実施するのか伺う。</p> <p>(3) 防災無線受信機の毎戸設置について期待する声があるが、今後どう対応するのか伺う。また、個別受信機の設置済み件数と設置率はどの程度か伺う。</p>
		2 栗駒耕英「山脈ハウス」の今後について	<p>1 6月8日の新聞報道で、栗駒耕英の「山脈ハウス」閉店を知ったが、「山脈ハウス」は栗原市の施設であり指定管理を行っている施設である。市への連絡を含め経緯について伺う。</p> <p>2 栗原市の観光の目玉の一つが栗駒山観光である。「山脈ハウス」の継続を望むものであるが、栗原市としての今後の対応について伺う。</p>
		3 金成三沢の山林火災からの教訓は	<p>1 6月12日に発生した金成三沢地区の山林火災は、幸いにも民家への延焼もなく焼失面積も少なく短時間で消火する事ができたが、早期消火につながった要因について消防本部としての見解を伺う。</p> <p>2 火災消火に向けた水源確保は重要な課題である。民家・山林火災含め、消火栓や防火水槽以外の水源、ため池や河川等について把握しているのか。また、火災が発生した場合、どの水源を活用するという水源確保計画はあるのか。</p> <p>3 ため池は中山間地域に多く、休耕地化している事から管理がなされていないケースが多々見受けられる。自治会へのコミュニティ組織一括交付金事業の独自項目として、ため池愛護事業を新たに加え、共助の中で地域の安全確保を図る必要があるのではないか。</p>
		4 今後の第3セクターの在り方について	<p>1 くりはら振興株式会社と株式会社ゆめぐりの経営診断業務報告書が3月5日の議員全員協議会で提出され、黒字化に向けた方策として、経営統合などにも触れられているようだが、今後どのように対応しようとしているのか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		5 小さい燃やせないゴミ袋も必要という声があるが	<p>1 栗原市内で使用されているゴミ袋の内、燃やせるゴミ用は大 35ℓ・小 20ℓ の 2 種類あるが、燃やせないゴミ袋は、大 40ℓ1 種類となっている。各々の年間生産又は出荷枚数はいくらか。</p> <p>2 燃やせないゴミ袋には、コップや茶碗、スプレー缶、割れたビンなど嵩張らないが、比較的重いものが多い事から、袋一杯になってからではゴミ集積所まで運ぶことができない。小さい袋も必要と言う声があるがどうか。</p>
1 5	19 番 菅 原 麻 紀	1 子育て支援及び婚活事業について	<p>1 子どもの人口が将来的に減少する傾向にあるが、子育て世代の方々が子育てをする良い環境がなければ、次の子供を産もうという気持ちになりづらいと感じる。また、お子さんをお持ちのお父さん、お母さんは仕事をしていれば尚更時間と気持ちに余裕がなく、家庭や地域、行政のサポートが必要になってくる。その中で、子育て応援事業として子育て情報配信アプリ「スマイル栗なび」がある。これは市からの情報や予防接種の日数計算、イベント情報、健診の記録ができるアプリだが、次の点を伺う。</p> <p>(1) アプリの登録人数の実績と目標を伺う。</p> <p>(2) 一方的な情報提供だけでなく、お父さん、お母さんが空いた時間に気軽に相談できる掲示板や相談コーナーのようなものをアプリに設けてはどうか。</p> <p>(3) 「スマイル栗なび」のPR方法として、どのように周知しているのかお聞きする。</p> <p>2 子供の人口の減少に関連して婚活事業も大きな期待をよせているところである。婚活事業の活性化が人口の増加や栗原市の定住につながる。ただ、コロナ禍であるので、婚活事業の令和 3 年度の予定をお聞きする。また、将来どういう形でやっていくのか、令和 4 年度以降の婚活事業のビジョンをお聞きする。</p>
1 6	15 番 佐 藤 文 男	1 学校給食費無償化のスケジュールは	<p>1 市長の選挙公約の中で、子育て支援策のさらなる充実の一つとして、学校給食費の無償化(無料化)を掲げている。子供を持つ家庭からは教育費の負担軽減になると大いに評価をされたものと思う。これまでの子育て支援策をさらに充実させ、早期の実施を望む立場から、以下の点はどうか。</p> <p>(1) 実施時期はいつからか。</p> <p>(2) 実施は小学校・中学校とも一斉に同時期になるのか。</p> <p>(3) 市内在住で、市外の小中学校等に就学している児童生徒に対しては、どのような対応になるか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 捕獲した害獣の 処分場建設を	1 イノシシ等の害獣は個体数が急激に増加をしているため駆除が追いつかず、被害が山間地を中心に年々深刻になっている。また、せっかく捕獲しても害獣の処分が、実施隊の方々の大きな負担となっている。ジビエなど食用に活用したとしても、頭や内臓・骨等の多くの残渣が出るためその処分も問題である。埋設処分したとしても周辺環境への影響も心配されることから、適正な処分が求められる。以下の点についてはどうか。 (1) 害獣を捕獲した場合の処分はどうなっているか。 (2) 捕獲した害獣の処分施設を作るべきと思うがどうか。
		3 利用しやすいデ マンド交通へ	1 一昨年の4月から市内全地区においてデマンド交通の運行が開始され、期待も大きいものがあつたが、従来から運行していた一迫以外は登録者、利用者は伸びていないように思う。途中、拠点の追加などの見直しがされたが、利用者からはもっと利用しやすいデマンド交通の声が聴かれる。以下の点はどうか。 (1) 運行開始初年度とくらべ拠点追加などの見直しをされたが、登録者、利用者はどのように改善されたか。 (2) 拠点を廃止し、戸口から戸口まで地区内どこでも行けるようにしてはどうか。 (3) 地区内だけの移動になっているが、病院やスーパーなどの拠点を設け、買い物など近隣地区までの移動もできるようにしてはどうか。その際の料金は別設定としてはどうか。
17	6番 三塚 東	1 「中核機能地域」の基本構想はどうか	1 東北新幹線くりこま高原駅周辺から築館宮野地区までの地域は、国道4号築館バイパスや、みやぎ県北高速幹線道路など高速交通網の結節点となるエリアであり、新たな交流や賑わいを創出する拠点として今後まちづくりを進めていく上で、市の核となる重要な場所であると考え、第2次栗原市総合計画及び第2次栗原市国土利用計画において「中核機能地域」として位置づけている。 本構想は、これらのエリアの現状・課題を把握し、「中核機能地域」のコンセプトや導入機能、土地利用等を検討し、今後の整備の方向性を示すことを目的に策定する。このように記載されている。そこで以下を聞く。 (1) 「中核機能地域」は、高速交通網の結節点となる東北新幹線くりこま高原駅周辺から築館宮野地区までの地域である。市長は、令和元年3月に策定した「栗原市中核機能地域の整備の基本構想」をどう考え、今後、どう策定していくのか。過程を示してほしい。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 R P A推進連絡 を設置すべき	1 「第3次栗原市行政改革大綱」において、ICT等の先進技術の積極的な導入など、行政プロセスや事務事業の抜本的な見直しが位置づけられていることから、新規事業としてRPA等による業務の自動化を本格的に導入し、事務事業の効率化に積極的に取り組むとしている。そこで、以下を聞く。 (1) パソコン操作をロボットが自動化し、事務処理業務の効率を飛躍的に向上させる技術「RPA」の導入により、効率化が見込まれる業務とその基準は何か。 (2) 「RPA」の全庁的展開に向けて、部局横断による「RPA推進連絡会」を設置すべきではないか。
		3 デマンド交通の 見直し策はどう なるのか	1 デマンド交通は導入前から、多くの市民からメリットやデメリットの意見が聞かれた。導入後は、住民や利用者の声に耳を傾けた改善がなされてきている。 (1) 市長は、「誰もが健康で、生きがいと楽しみを持って過ごせるまち」を目指し、自家用車などの日常的な交通手段を持たない市民の生活を支えるため、デマンド交通の見直しに着手するほか、利便性の高い買い物支援策を検討するとしている。 市長の考えるデマンド交通の見直し策と、買い物支援策の実現に向けた計画を示してほしい。
		4 学校給食での食 育体制を充実せ よ	1 家庭における教育費の負担軽減策として、小・中学校の給食費を無料にするとしている。そこで、以下を聞きたい。 (1) 令和2年度から、過去5年間の給食費の決算額と保護者の負担額はどうか。 (2) 給食費を無料にした場合、市の負担額とその財源はどうか。 (3) 給食費を無料にするのならば、国の第4次食育推進基本計画の方針に基づき、地域の農業や食、自然、文化などへの理解を進めるため、地場産物の活用を推進するとともに、栄養教諭を増やし、小・中学校などの食育体制を充実すべきではないか。
		5 「山脈ハウス」 早期に公募せよ	1 栗駒耕英の観光施設「山脈ハウス」が閉店し、組合の解散を決定し、市の指定管理も返上する。 この施設は、地域のシンボルとしても親しまれてきたが、組合員の減少や新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、売り上げが落ち込んだことなどの理由で閉店せざるを得なくなったようである。そこで、以下を聞きたい。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) これまで、2008年に発生した岩手・宮城内陸地震の復興イベントや地区の集会所などにも利用され、市の観光施設でもある「山脈ハウス」の指定管理者を早期に公募し、新たな体制でスタートすべきではないか。</p> <p>(2) 新たなスタートに向け、施設の指定管理を委託する場合、指定管理料を考えるべきではないか。</p>
18	17番 石川正運	1 市長の施政方針について	<p>1 市長の施政方針の中で、「現在の社会状況と、市が置かれた現状を憂慮し、このたび、私が公約に掲げ、市民の皆様方と約束してまいりました、市の在るべき姿の理念や理想は、自ら広い市内をくまなく歩き直接多くの市民の声を伺い市民とともに考えてきた中から生まれたものであります。」と明記されているが、次の点を伺う。</p> <p>(1) 「市の在るべき姿の理念や理想」とあるが、市の将来の在るべき姿と政策的ビジョンを伺う。</p> <p>(2) 我が郷土くりはらを「希望ある未来へ向かう『くりはら新創生』の舵取り役となって、明日の航路へ栗原市を進めていく。」とあるが、市長の描く明日の栗原とはどのような栗原か伺う。</p> <p>(3) 市長は5つの目標に向かい全力で取り組んでいくとしているが、これは公約として理解しているのか伺う。</p>
		2 汚染稲わら、汚染牧草処理について	<p>1 市が早急に取り組むべき課題として、原発事故の発生に伴う汚染された稲わら、牧草処理について伺う。</p> <p>(1) 8千ベクレル以下の汚染牧草の処理は、市では当初から焼却はしない方向でこれまで堆肥化の実証実験を行い進めてきたが、先行きが見えない状況にある。次の点を伺う。</p> <p>① 市長が考える処理方法は、堆肥化か。その他を選択するのか。</p> <p>② いつ頃を目途に処理をされるのか。</p> <p>(2) 汚染稲わら処理について。当初2年間の約束で地域の方々との了解を得てから、いまだビニールハウスに保管されたままの状況が続いている。安全、安心なくりはらを目指している市長として、汚染稲わら処理についてどう思われているか伺う。</p>

※ この要旨は、各議員から提出された通告書の要点をまとめたものです。